人に媚びず、
富貴を望まず

戦いは考え過ぎては
勝機を逸する
最期の勝ちを得るには
どうしたらいいかを考えよ

天下に最も多きは人なり
最も少なきも人なり

荘厳寺本黒田家略系図

合子兜・黒糸威胴丸具足
（黒田如水所用）
撮影者：藤本健八

2015.02.12　大山病院　総務課長　山根徹

丹波市：老健さんなん桜の里

西脇市：特養オンベリーコ

西脇市：地域支援ハウスゆうゆう

神戸市：老健フローラルヴィラ垂水

正峰会グループ

舞鶴市：老健アザレア舞鶴

西脇市：在宅支援部

西脇市：訪問看護ステーション

神戸市：神戸ゆうこう病院

正峰会グループ　基本理念

『地域とともに、あなたと生きる。』

当法人は平成5年に西脇市黒田庄町に開設した大山病院を中心に超高齢化社会に対応すべく在宅診療や住宅サービス、老人介護施設サービス事業を展開し、地域医療・介護に貢献しております。北は京都府舞鶴市から南は神戸市まで、真に地域の皆様のお役にたてるよう日々職員の教育や施設の充実などに取り組んでおります。

イメージキャラクター

正峰会グループ

一般病院	2	270床
診療所	1	
介護老人保健施設	3	326床
特別養護老人ホーム	1	70床
グループホーム	5	99室
居宅介護支援事業所	5	
在宅介護支援センター	1	
訪問看護ST	1	
訪問介護ST	1	
デイサービスセンター	4	
小規模多機能ホーム	1	9室
給食工場	1	
住宅型有料老人ホーム	2	59室
フィットネスクラブ	1	
認可外保育園	1	

30事業所

合計　833

医療法人社団 正峰会

大山病院
神戸ゆうこう病院
谷上ノリッジクリニック
老健：さんなん桜の里
老健：アザレア舞鶴
老健：フローラルヴィラ垂水
GH：モンファミーユ北六甲
GH：メディケア柏原
GH：モンファミーユ舞鶴
在宅支援部

社会福祉法人　正峰会

特養：オンベリーコ
GH：さくらんぼ
地域支援ハウス　ゆうゆう
西脇さくら保育園

株式会社　新緑

有老：ハーベストコート桜丘１号館
有老：ハーベストコート桜丘２号館
喫茶：さくら亭
スポーツジム：アクアスポーツ
給食工場：デリキッチンにしわき

現在30事業所　833ベッドを保有

■大山病院

・床数　　：病院199床
・延床面積：既存合計 12,140.80㎡
・構造規模：鉄筋コンクリート造、地上4階

■大山病院のあゆみ

【H5. 6月】大山病院　開設(55床)
従業員38名でスタート

【H15. 8月】110床に増床

【H23. 11月】199床へ増床

大山病院

■大山病院の基本理念

地域とともに、あなたと生きる。

1. 患者様の権利の尊重を第一に考え、信頼される病院づくりをめざします。

2. より良い医療をやさしく効率的に提供するため、職務能力の開発と人間性の向上に努めます。

3. 利益を地域社会と職員に還元できるよう経営基盤を安定させます。

■大山病院の基本方針

【急性期医療および専門医療】

24時間体制で救急患者様を受入れ、先端医療を提供します。

【在宅医療】

在宅への復帰を促し、在宅療養を医療と介護で支援します。

【予防医学】

生活習慣病を中心とした予防医学の重要性を広く啓蒙し、
検診・人間ドックを推進します。

【患者様サービスの向上】

患者様の権利を尊重し、患者様中心のサービスを提供します。

【安全な医療】

「医療事故ゼロ」をめざし、安全な医療を推進するための体制を作ります。

【地域との連携】

地域の関連機関との連携を密にして、地域の保健・医療・福祉に貢献します。

【職員教育】

医療に従事する者として、常に研鑽に励み、医療の質の向上に努めます。

【経営の健全化】

人的・物的資源を効率的に有効活用し、経営基盤の安定化を図ります。

■大山病院の施設概要

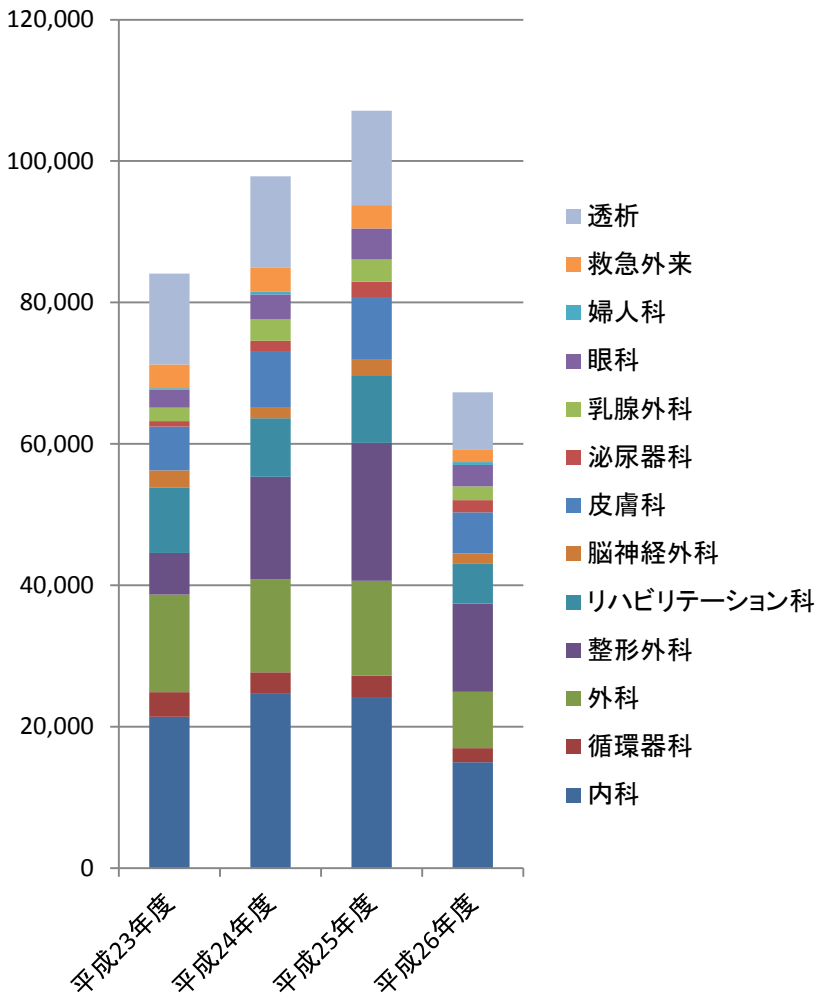
名称	医療法人社団　正峰会　大山病院
所在地	兵庫県西脇市黒田庄町田高313
開設者	大山　正
電話番号	0795-28-3773（代表）
開設日	平成5年6月1日
法人設立	平成8年7月22日
診療科目	外科・消化器内科・消化器外科・内科・循環器内科・眼科・乳腺外科 脳神経外科・皮膚科・整形外科・肛門外科・リハビリテーション科 泌尿器科・人工透析内科・婦人科・麻酔科・形成外科
敷地面積	9,660.52㎡
構造	鉄筋コンクリート造４階建
諸指定および認定	厚生労働省 臨床研修病院指定（福島県立医大協力型） 日本医療機能評価機構認定Ver.6（平成25年3月17日認定） 2次救急指定病院(北播磨圏域夜間輪番体制参画) 救急告示指定病院、麻酔科学会認定病院 自立支援医療指定病院 労災保険医療機関　生活保護法保険医療機関 結核予防法医療機関 品質マネジメントシステムISO9001 （平成18年3月16日認定） ＤＰＣ対象病院 （平成21年7月1日指定）

■大山病院の施設概要

許可病床数	199床（1床室39室、2床室4室、4床室38室　）
看護基準	10：1入院基本料
延入院患者数	55,247人（平成25年4月～平成26年3月）（昨年比　6,618人↑）
病床利用率	75.3%（平成25年4月～平成26年3月）（昨年比　8.4%↑） 81.9%（平成26年12月1日現在）
急性期平均在院日数	11.9日（平成25年4月～平成26年3月）（昨年比　1.4日↓）
延外来患者数	107,127人（平成25年4月～平成26年3月）（昨年比　9,279人↑）
1日平均外来患者数	293.5人（平成25年4月～平成26年3月）（昨年比　46.7人↑）
手術件数	1,691件（平成25年4月～平成26年3月）（昨年比　13件↑）
救急受入数	1,194件（平成25年4月～平成26年3月）（昨年比　107人↑）
認定医・専門医	日本外科学会、日本消化器学会、日本臨床外科学会 日本脳神経外科学会、日本内科学会、日本循環器学会、 日本皮膚科学会、日本消化器病学会、日本高血圧学会、 日本内分泌学会、日本消化器内視鏡学会 日本腎臓学会、日本透析学会、日本麻酔学会
医師数（非常勤含む）	43名（常勤17名）　平成27年2月1日現在
職員数	429名（平成27年2月1日現在）医師43名、看護師131名(正看101、准看30) 薬剤師5名、放射線技師10名、臨床検査技師17名、臨床工学技士9名、 理学療法士34名、作業療法士7名、言語聴覚士2名、視能訓練士3名、 救急救命士5名、管理栄養士7名、介護福祉士9名、他147名

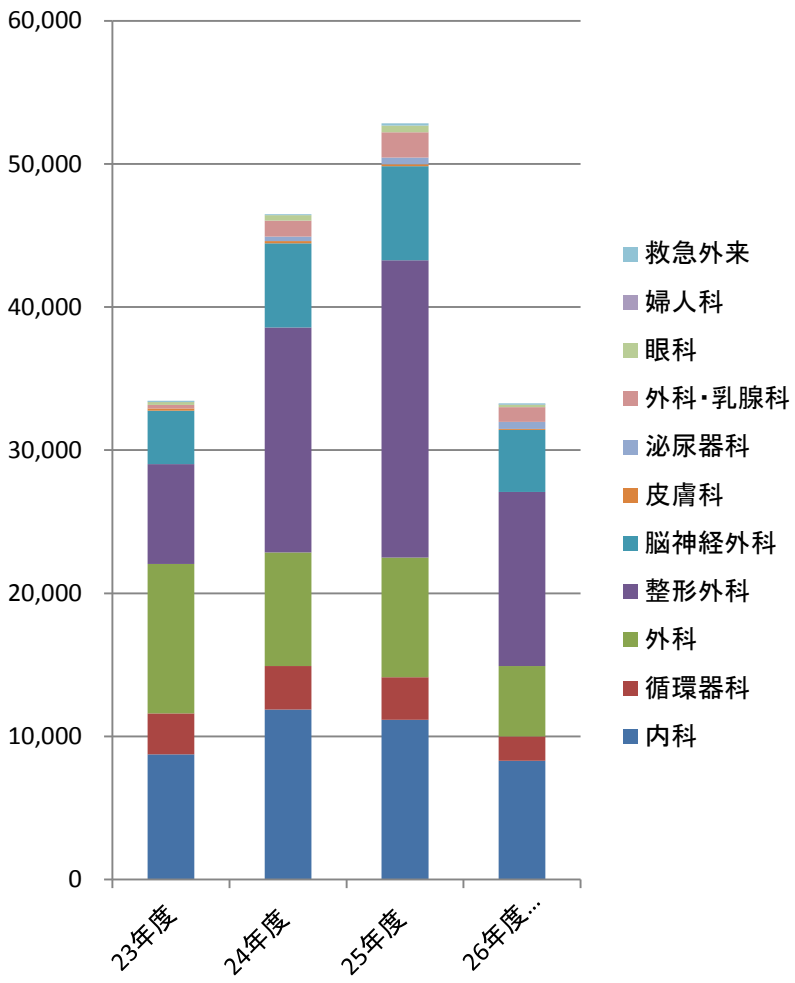
■大山病院の延患者数の推移(外来)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度 10月まで
内科	21,399	24,772	24,090	14,990
循環器科	3,483	2,941	3,157	1,980
外科	13,823	13,121	13,416	7,967
整形外科	5,880	14,537	19,474	12,495
リハビリテーション科	9,270	8,263	9,462	5,622
脳神経外科	2,398	1,586	2,404	1,503
皮膚科	6,190	7,939	8,669	5,759
泌尿器科	798	1,407	2,291	1,723
乳腺外科	1,866	3,102	3,133	1,979
眼科	2,548	3,498	4,355	3,016
婦人科	235	356	0	387
救急外来	3,347	3,364	3,324	1,750
透析	12,844	12,962	13,352	8,113
合計	84,081	97,848	107,127	67,284
月平均	7006.8	8154.0	8927.3	9612.0
1日平均	229.7	268.1	293.5	314.4



■大山病院の延患者数の推移（入院）

入院	23年度	24年度	25年度	26年度（10月まで）
内科	8,739	11,865	11,163	8,294
循環器科	2,871	3,054	2,965	1,693
外科	10,444	7,941	8,367	4,928
整形外科	6,963	15,712	20,774	12,164
脳神経外科	3,747	5,888	6,578	4,337
皮膚科	139	147	116	73
泌尿器科	0	323	490	486
外科・乳腺科	264	1,102	1,760	1,024
眼科	191	376	471	173
婦人科	1	0	0	9
救急外来	82	74	153	98
合計	33,441	46,842	52,837	33,279
入院	1,643	2,159	2,414	1,431
退院	1,610	2,118	2,410	1,425
合計(退院患者含む)	35,051	48,600	55,247	34,704
月平均	2,921	4,050	4,604	4,958
1日平均	96	133	151	162



■大山病院の施設概要

■基本診療料の施設基準等

○　一般病棟入院基本料１０：１　（2階東：50床、3階東：50床） 看護必要度加算1・急性期看護補助体制加算25:1	
○地域包括ケア病棟入院料（3階西：49床）	○回復期リハビリテーション入院料2（2階西：50床） 休日リハビリテーション提供体制加算、充実加算
○総合評価加算	○リハビリ提供体制加算
○臨床研修病院入院診療加算	○患者サポート体制加算
○救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	○退院調整加算
○診療録管理体制加算	○救急搬送患者地域連携紹介・受入加算
○医師事務作業補助体制加算20：1	○データ提出加算
○急性期看護補助体制加算25：1	○医療安全対策加算2
○療養環境加算	○感染防止対策加算2

■大山病院の施設概要

【外来】17診療科

外科、消化器内科、消化器外科、内科、循環器内科

脳神経外科、眼科、乳腺外科、麻酔科、皮膚科

整形外科、形成外科、肛門外科、リハビリテーション科

泌尿器科、人工透析内科　婦人科

- 日曜日も診察しています。
- 北播磨医療圏で、民間で数少ない二次救急指定病院

【手術室】3手術室

【入院】許可病床199床　（DPC対象病院）

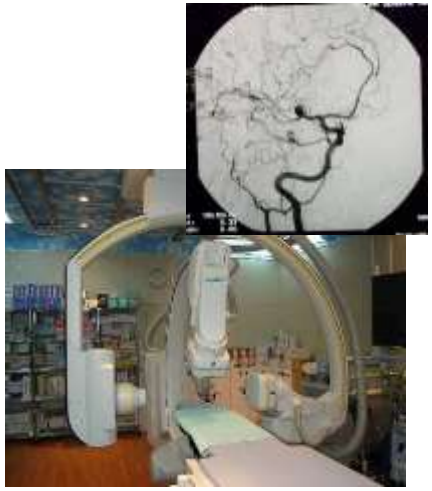
①急性期病棟（10:1病棟）100床

②回復期リハビリテーション病棟50床

③地域包括ケア病棟49床

【透析室】40床+2個室

■大山病院の医療機器



血管内に細かい管（カテーテル）を挿入し、造影剤を注入することで、微細な血管病変（狭窄、梗塞等）の診断を可能にします。さらに、検査からすぐさま狭心症の風船治療など、緊急治療への対応も可能な装置です。

血管造影（アンギオ）検査装置

シーメンス社　Artis zee BC

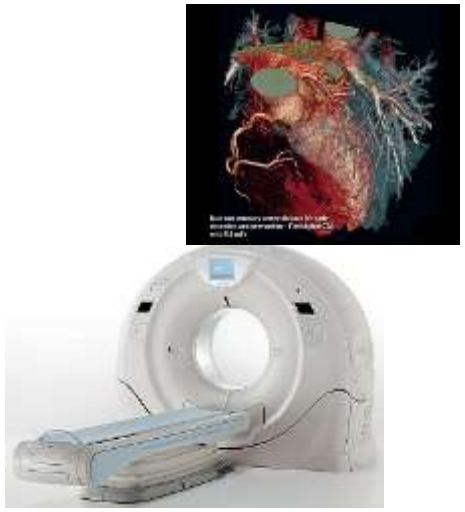
最新型へのバージョンアップを行い、3T（3テスラ）という高磁場に加え、デジタル高密度コイルの搭載により、一層の高速・高精細な画像診断が可能となりました。
頭部の小さな病変（腫瘍，梗塞など）や血管の状態、整形外科領域や腹部などの全身の検査診断が可能です。

3.0テスラMRI

シーメンス社　MAGNETOM Skyra

核医学装置と診断用X線CT装置を搭載することで、正確な位置の同定が可能であることはもちろん、放射性医薬品の集積の性状が診断用CTから診断できます。

SPECT-CT　核医学検査



心臓疾患の予防には、心臓に特化した定期的な検診が効果的で、当院ではこのCT装置を最大限に活用し、循環器科専門医による『心臓ドック』にも力を入れてまいります。

320列CT装置 Aquilion ONE

■その他の機械や 注目 取組

『ロボットスーツHAL』を導入いたしました

『あきらめない・頼らない・自信をもって』
～自身の能力を引き出す新しいリハビリテーション～

大山病院回復期リハビリテーション病棟では、平成26年8月より、筑波大学大学院システム情報工学研究科 教授兼CYBERDYNE株式会社CEOである山海嘉之氏が開発し、最先端技術が駆使された自立動作支援ロボット「ロボットスーツHAL®福祉用」(Hybrid Assistive Limb)を導入しています。

～ＨＡＬを用いた訓練の様子～

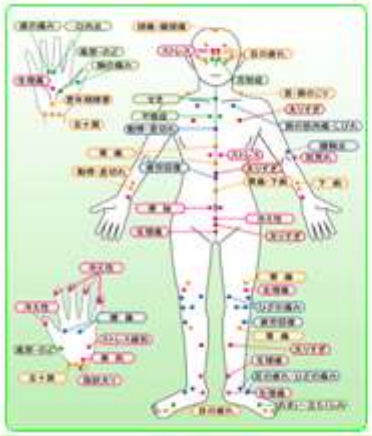
人は脳から神経系を通じて体を動かすことができます。HALを装着することにより、脳からの信号を感知して、筋肉の動きをサポートします。また、患者様の日常生活の基本となる立ち上がりや歩行の獲得に大きく貢献します。

鍼（はり）治療をはじめました

藤本鍼灸師

脳や脊髄の病気により、身体の筋肉の緊張が高まりつっぱりが強くなった状態（痙縮）や、また痙縮により運動機能の回復が妨げられたり、手足の関節が固まってしまう（拘縮）があります。さらに痛みのために、立位や歩行が不安定となり、リハビリテーションに支障が生じてしまうことも考えられます。

大山病院回復リハビリテーション病棟では、より効果的にリハビリテーションを行うため、平成26年8月より、みか接骨鍼灸院より藤本鍼灸師におこしいただき、鍼（はり）治療を開始しました。



■院内の様子

航空写真

中庭

遊歩道

外来待合

光庭

受付

再来機

売店

健康管理センター

外来化学療法室

多目的ホール

１Fリハビリテーション室

回復期リハビリ室

サービスステーション

2床室

デイルーム

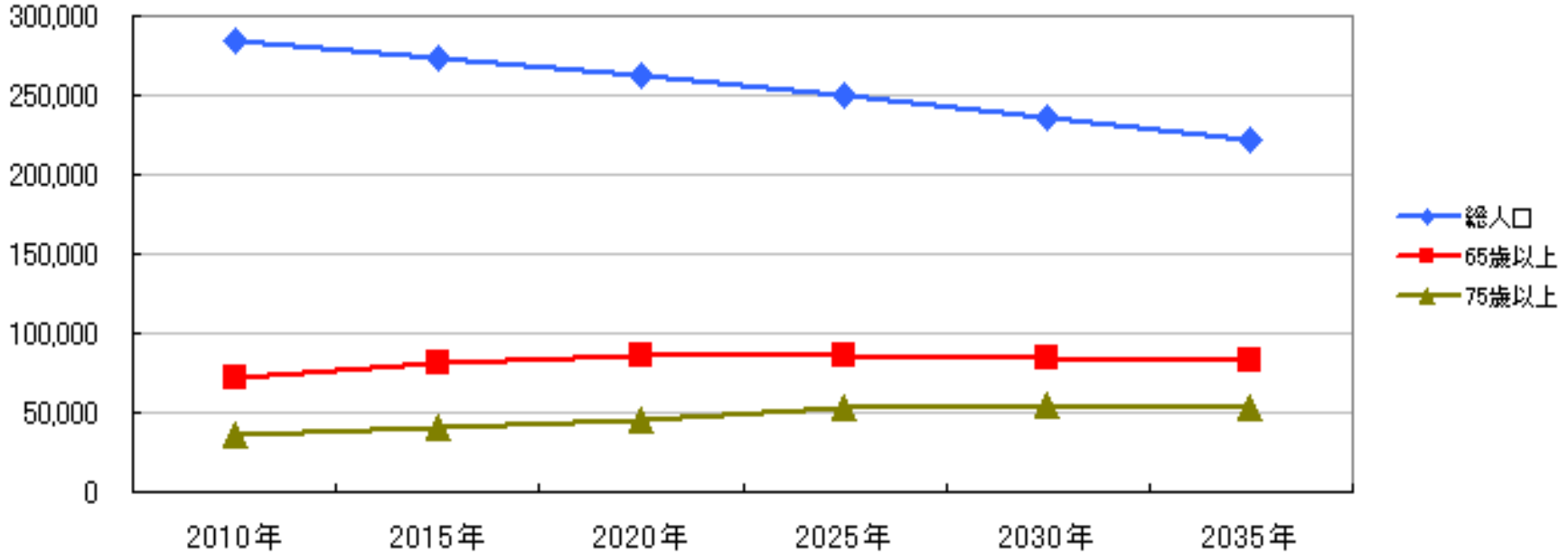
手術室

人工透析センター

透析個室

大会議室

北播磨 人口推移予測



人口	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	10⇒35年増加率
0歳～65歳	212,672	192,114	176,263	163,713	151,735	139,304	-34%
65歳以上75歳未満	36,127	41,006	40,007	33,341	29,801	29,709	-18%
75歳以上	35,970	40,486	45,875	52,526	54,721	53,198	48%
高齢化率(65歳以上)	25%	30%	33%	34%	36%	37%	

■少子高齢化社会の現状

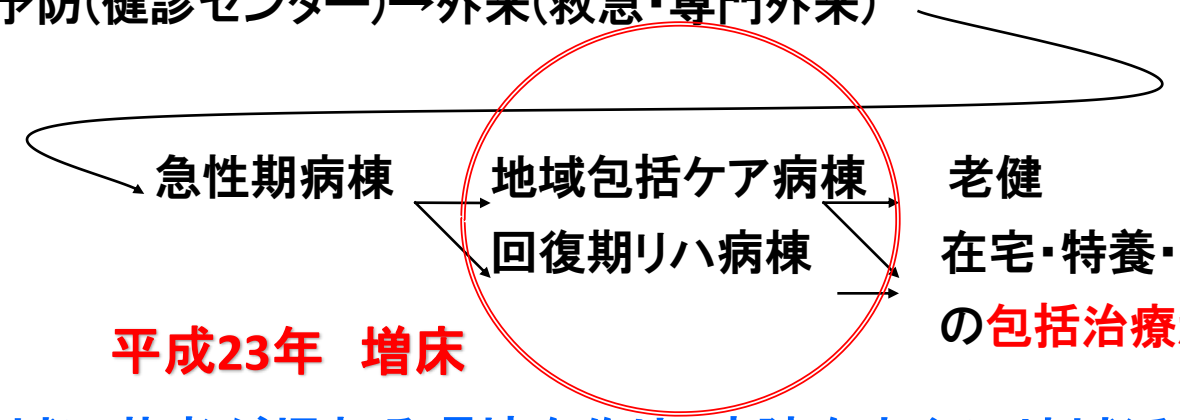
【北播磨と丹波・篠山・三田地区】

地域	総人口（人）				指数（2005年＝100）			
	2005年	2015年	2030年	2035年	2005年	2015年	2030年	2035年
西脇市	43,953	39,940	32,852	30,487	100.0	90.9	74.7	69.4
多可町	24,304	22,040	18,361	17,128	100.0	90.7	75.5	70.5
加西市	49,396	45,352	38,216	35,613	100.0	91.8	77.4	72.1
三木市	84,361	79,426	68,085	63,638	100.0	94.2	80.7	75.4
加東市	39,970	37,842	33,393	31,663	100.0	94.7	83.5	79.2
小野市	49,761	49,006	45,350	43,682	100.0	98.5	91.1	87.8
丹波市	70,810	65,223	55,779	52,552	100.0	92.1	78.8	74.2
篠山市	45,245	41,930	36,144	34,111	100.0	92.7	79.9	75.4
三田市	113,572	116,328	113,242	110,497	100.0	102.4	99.7	97.3

■大山病院・正峰会グループの方向性

- 高齢化社会となっても、安全な暮しが出来る地域を作る。

予防(健診センター)→外来(救急・専門外来)



- 地域に若者が帰れる環境を作り、病院を中心に地域活性化を図る。

医療従事者の地元回帰やUターン者の雇用確保
人や商業が集まる環境つくり

- 子育て支援と地域の皆様がいきいきと暮らせるような取り組み。

夜間対応型で多くのお子様をお預かりできる保育園
母子・父子家庭の子育てをサポートするセンター
CCAC(地域なんでも相談所)での「生きがい」つくり

高齢化社会となっても、安全な暮しが出来る地域を作る

介護

特別養護老人ホーム

小規模多機能

グループホーム

有料老人ホーム

大山病院
急性期

医療

回復期リハ病棟

地域包括ケア病棟

自　宅

老人保健施設

在宅支援
（訪問診療・訪看・居宅等）

在宅

■地域交流の様子（第12回健康ふれあいフェスタ　平成26年11月3日）

■地域交流の様子（健康ふれあい教室＆いきいきサロン）

健康ふれあい教室

認知症劇も

いきいきサロンや

小学校で特別授業

ES向上のための取組

■看護師確保プロジェクト会議の始動

プロジェクトメンバー：看護部長・事務長・営業部長・事務次長・看護課長・人事課長係長・総務課長・渉外部・システム

初期目標：年間40名の看護師獲得

①多職種が確保に向けてアイデアを提案する会議

②就職説明会と復職支援セミナーの定着

③看護専門学校生の実習受入開始

④診療圏域を超えての誘致活動(北陸や四国方面)

⑤看護師専用のホームページを製作　等

院長先生と看護専門学生で記念写真

復職支援セミナーの様子

看護師専用ホームページ

就職説明会の様子

徳島文理大学の皆様が見学にこられました

大山病院

医療法人社団 正峰会

ES向上のための取組

ひょうご仕事と生活のバランス企業表彰　受賞（平成25年11月）

授賞式の様子

病院職員

当法人のワークライフバランスに対する取り組みが認められ、平成25年度の「ひょうご仕事と生活のバランス表彰」を受賞しました。

ワークライフバランスとは･･･
育児や介護、疲労回復や自己啓発など、生活を楽しむ時間を確保しつつ、仕事に意欲を持ち、安心して働き続けたいと考える大山病院の職員に対し、多岐にわたって働き方を構築し、時間効率を高める取り組みや職場の風土づくりを行った取り組みです。

多様化する働き方への対応

1人ひとりの希望に沿う勤務形態で雇用契約
非常勤でも優秀であれば役職へ登用

福利厚生の充実

フィットネスクラブの無料開放

法人内　施設対抗運動会などイベントも豊富

その他にも…
定期的な健康診断、予防ワクチンの摂取
職員旅行
年に1度の連続休暇(1週間)制度　など

大山病院

ES向上のための取組

■大山病院（正峰会）のワークライフバランスの取り組み

施策1　**事務職の現場配置**

事務職員が…

事務職員

外来手術室課長

事務職員

手術室

看護補助　　リハビリ

事務作業、残業の軽減

看護師の心のゆとり

手厚い看護の実現

ES向上のための取組

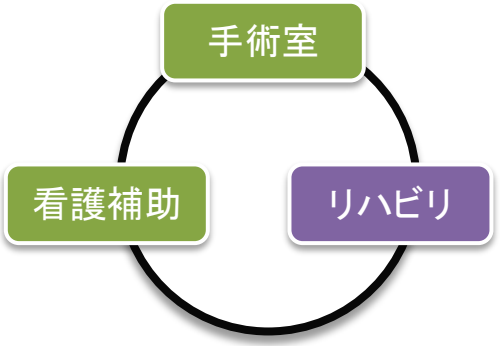
■大山病院（正峰会）のワークライフバランスの取り組み

施策1　**事務職の現場配置**

事務部係長も…

事務部係長

事務部係長



事務係長がリハビリ助手を

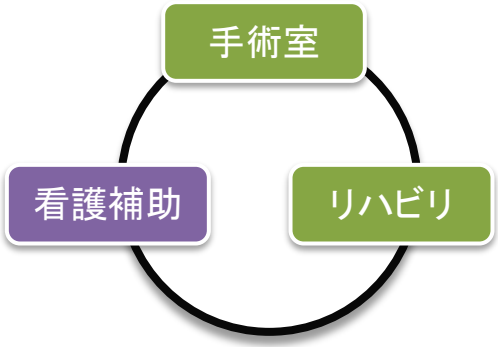
作業の効率化

手厚いリハビリの実現

ES向上のための取組

■大山病院（正峰会）のワークライフバランスの取り組み

施策1　**事務職の現場配置**



- 看護夜勤助手
- 看護師リーダー業務補助
- ナースコール対応
  患者様移送、配膳業務
- 患者様と看護師の
  関係をつなぐ支援

■大山病院(正峰会)のワークライフバランスの取り組み

施策2 **福利厚生**

フィットネスクラブの無料開放

臨床心理士によるカウンセリング

法人内　施設対抗運動会

その他にも…

職員旅行

年に1度の連続休暇(1週間)制度

バレー部・バスケ部などの部活動

リゾートトラスト社のエクシブ会員に加入。
※リゾートホテルを会員割引価格で利用が可能。

■大山病院（正峰会）のワークライフバランスの取り組み

施策3　**家族寮・看護師寮・コメディカル寮の新設**

西脇さくら保育園

病院まで徒歩2分　110m

コメディカル寮　桜コート

病院まで徒歩8分　650m

家族寮　モンファミーユ

病院まで徒歩3分　180m

看護師寮　アルテミスコート

病院まで徒歩6分　450m

病院を中心とした生活環境

小学校・中学校・警察署・スーパー・ドラッグストアなどが集まった

ES向上のための取組

■大山病院（正峰会）のワークライフバランスの取り組み

保育園

園外保育を中心とした保育

食育

水遊び

野菜作り

病児保育や一時保育、24時間保育、学童保育も実施

ES向上のための取組

■第2回正峰会グループ大運動会(平成26年4月)

医療法人社団 正峰会

ES向上のための取組

高年齢者雇用開発コンテスト　奨励賞受賞（平成26年10月）

授賞式の様子

正峰会の高年齢者雇用に対する取り組みが認められ、全国高年齢者雇用開発フォーラム内で行われた高年齢者雇用開発コンテストで奨励賞を受賞しました。

正峰会　大運動会

定年制・継続雇用制度の見直し

従来は定年を60としてましたが、事業規模を拡大してきた正峰会にとって人材不足は慢性的な課題となっていた。その後、法規制の改定に伴い制度上は現規定（希望者は65歳まで継続雇用）とした。さらに平成19年の施設新規開発に伴う人材募集に際し、人材不足が顕著になったため、『いきいきパート』を創設し65歳以上の雇用を積極的に採り入れた。

多様な就業形態と業務転換

年齢的な制限、勤務制限を撤廃し、本人の希望に合わせた短時間・短日勤制を導入した。また他種類の職務があることから柔軟な採用が可能である。

健康管理による就業人口対策

健康管理面・福利厚生面を充実させることで、安心して働ける職場環境づくりに努めている。また地域での就業人口を減らさないことが地域活性化につながり、末永く働けることを実践できれば地域の過疎化を少しでも遅らせることができる。

大山病院

ES向上のための取組

いきいきと働く70歳超従業員について

Aさん（71歳）男性

雇用形態・勤務形態	いきいきパート
労働時間	7:00～16:00　1日8時間　週5日
職務内容	営繕兼運転手
賃金	時給　800円
働きぶり	大山病院の総務課営繕係として、訪れる患者さまや働く職員1人ひとり思い遣りを持って接しており高い信頼を得ている。

注目

患者様・利用者様の一般送迎車運転手として勤務されていたが、70歳を超え体力的な危険度の少ない営繕業務に配置換えを行うことで、雇用の継続が可能となった。

地域でも民生委員をし、所属部署内でも協調性に優れ、高齢者が多い営繕係のまとめ役をしながら、器用さを発揮し患者サービスの向上に貢献している。車椅子の修理、エアコンの清掃、透析患者様の送迎、植栽や菜園の管理など幅広く活躍している。きめ細かい配慮と、てきぱきと動き回る姿は元気そのものです。働くことが生きがいで、雇用してもらっていることに感謝の念をもち、精一杯勤務したいとのことでフルタイム勤務を希望されています。

こども達といっしょに

農業などで土に触れ

いのちについて教えています

ES向上のための取組

雇用の仕組み

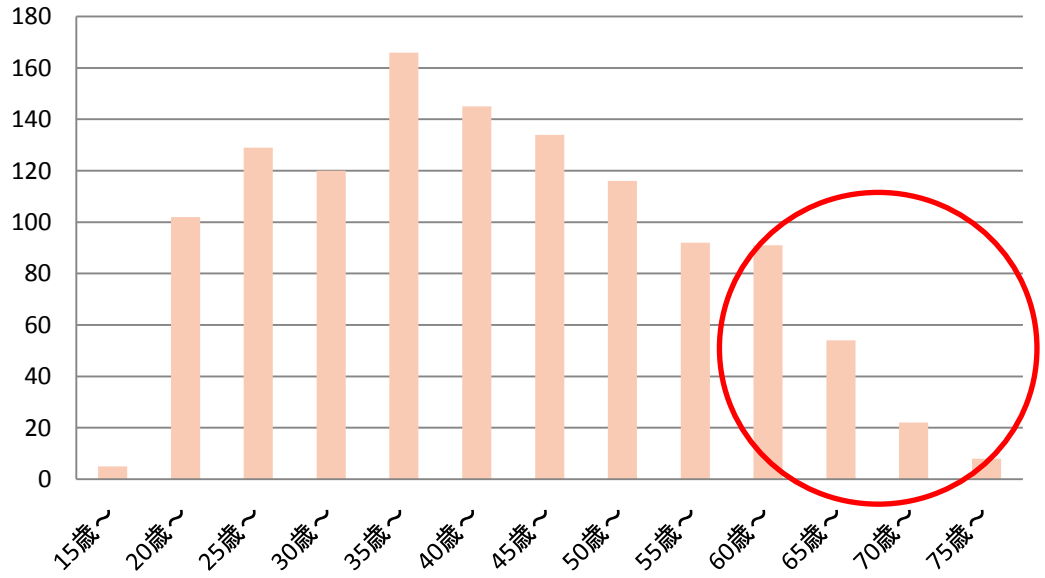
＊『いきいきパート』からの採用も積極的に行っている

1年更新の嘱託契約　　『いきいきパート』(短期間パート)契約…定年はなし

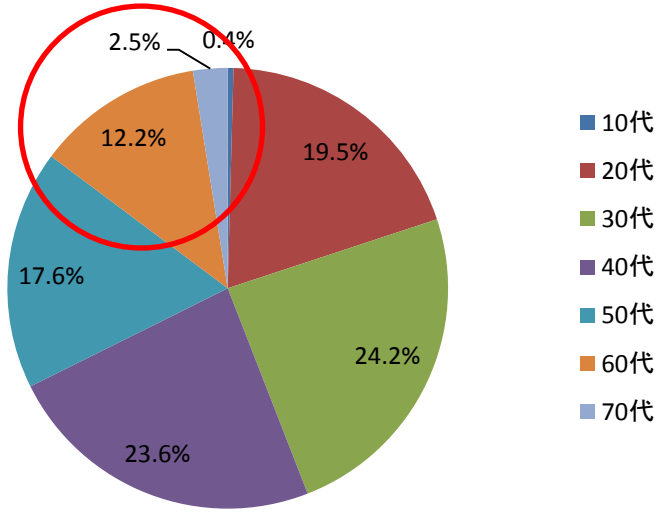
60歳 → 65歳 → 70歳 → 年齢制限なし

定年　　継続雇用を希望　　継続雇用を希望　　業務内容見直し

年齢別人員構成



年齢別構成割合



60歳以上は全体の14.7%
1184人中175人

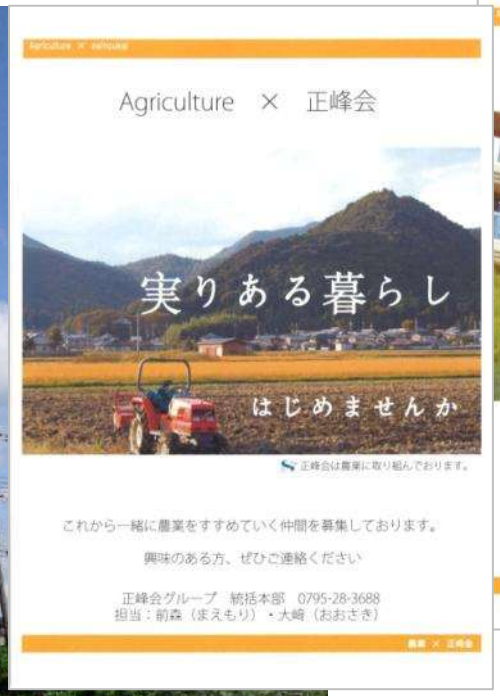
人数内訳表

	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳～	75歳～
人数(H26.10.15)	5	102	129	120	166	145	134	116	92	91	54	22	8
10歳刻　割合	0.4%	19.5%		24.2%		23.6%		17.6%		12.2%		2.5%	

Agriculture × 正峰会

地域の活性化のために、正峰会は農業に取り組み始めました

募集POP



募集POP

この秋もすくすくと育っています

トラクターで耕すところからスタート

■社会医療法人認定をめざすにあたって

○救急医療こそが病院開設の原点
（土・日曜日診療からのスタート）

○公的医療機関の補完業務の重要性
（17:00以降、土・日曜日の救急体制には民間の柔軟性が必要）

○病院は地域の公共財
（持分放棄にあたって）

○挑戦こそが組織を成長させる
（規定の整理・運用によりガバナンスの強化を図る）

○今後は災害医療・へき地医療にも目を向ける
（災害時の地域連携は不可欠）

ご清聴ありがとうございました。

医療法人社団
正峰会 大山病院